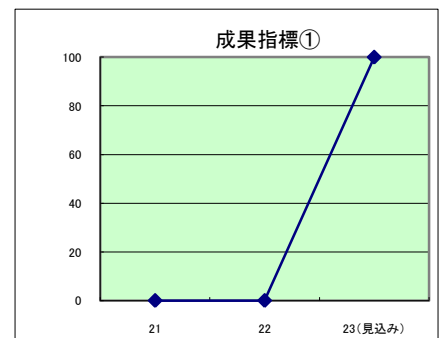
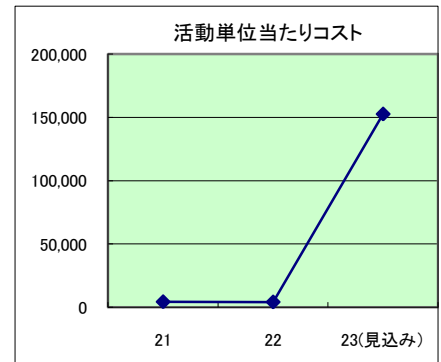


事務事業名	古市駅前東広場整備事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち	款	8	土木費
	施策(節)	9	道路交通	項	4	都市計画費
	施策の方向	(3)	公共交通網と交通ターミナル機能の強化	目	4	都市整備推進費
	関連する計画等	羽曳野市都市計画マスタープラン		事業	59	古市駅前東地区整備
事業の目的	対象(誰を・何を)		作成部署	都市開発部都市計画課		
事業の内容	古市駅前東地区		連絡先	072 - 958 - 1111 内線 2571		
	意図(どういう状態にしたいのか)					
	まちの顔にふさわしい、安全で、にぎわいのある駅前空間を形成する。					
	近畿日本鉄道古市駅の駅前広場整備をすることにより、駅周辺交通混雑の解消、公共交通機関利用者の利便性の向上等交通環境の改善及び、「地域の顔」づくりを行うとともに、駅前周辺地区の集客交流機能を高める。 (平成22年度) ・古市駅周辺まちづくり構想の実現化を目指し、行政機関等との計画や事業の協議・調整 ・東側駐輪場跡地の広場整備の測量登記 ・広場管理棟実施設計					
根拠法令等						
事業開始時期	☐ 昭和 20 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度	平成 23 年度		
事業開始時からの状況変化	平成21年に「羽曳野市古市駅周辺まちづくり基本構想」が策定された。					
市民や議会の要望	駅東側広場としての整備の要望がある。					
実施手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称() ☒ 民間委託 ☐ その他		委託内容	古市駅東広場整備		

区 分		21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (見込み)
事業費【1】	(千円)	2,632	1,807	191,651
人件費【2】	(千円)	3,000	3,600	6,696
職員数				
正規職員		0.40 人	0.50 人	0.93 人
再任用職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
嘱託職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
臨時職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
超過勤務(参考)	(時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】	(千円)	5,632	5,407	198,347
財源内訳				
国費	(千円)			
府費	(千円)			
市債	(千円)			
その他(手数料・使用料等)	(千円)			
一般財源	(千円)	5,632	5,407	198,347
活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 駅前広場整備面積	m ²	1,300	1,300	1,300
②				
③				
活動単位当たりコスト(【A】/【B】①)		4,332 円	4,159 円	152,575 円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)		47 円	46 円	1,681 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名	単位	指標設定の考え方	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	① 整備率	%	駅前広場の整備率	目標 0	0	達成率(%) 100
	(式) 駅広面積÷整備済面積×100			実績 0	0	—
	② (式)			目標		達成率(%)

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	駅前広場は、駅と道路を結ぶ主要な都市施設であり、行政が主体となって整備する必要がある。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	駅東側の利用者の利便性向上と歩行者等の安全性の確保、周辺地区の活性化を図るため妥当性がある。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☒	☐	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	調整・協議事務としての人件費コストであるため、人員削減の余地はない。専門的な業務を民間委託しており、必要最小限のコストであることから、事業費を削減できない。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	まちの顔にふさわしい、安全で、にぎわいのある駅前空間形成を実現するための事業である。関係機関との協議を進めることで、より早期の整備が図れる。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	鉄道事業者等関係機関との連携を図り、計画的に事業を進めている。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	羽曳野市古市駅周辺まちづくり基本構想に基づく事業であり、駅東側の利用者の利便性向上と歩行者等の安全性の確保、周辺地区の活性化を図るうえで必要な事業である。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行革本部評価	施工業者及び関係機関等と綿密な協議・調整を行い、平成23年度中の整備を目指す。	
	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	